

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成21年7月2日 (2009.7.2)

【公表番号】特表2005-522644(P2005-522644A)

【公表日】平成17年7月28日 (2005.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2005-029

【出願番号】特願2003-584519(P2003-584519)

【国際特許分類】

F 1 5 D 1/12 (2006.01)

B 2 9 C 45/00 (2006.01)

B 6 3 B 1/34 (2006.01)

B 6 4 C 21/10 (2006.01)

【F I】

F 1 5 D 1/12 Z

B 2 9 C 45/00

B 6 3 B 1/34

B 6 4 C 21/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年5月13日 (2009.5.13)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

横断面で台形またはくさび形の形の稜線の優先方向に配向された列を有する微細構造化表面を少なくとも部分的に有する、プラスチック、ガラス、セラミックまたは金属からなる固体において、

稜線は高さ (H) の点で 0 mm～2 mm の範囲内にある極小および極大を有し、かつこの極小および極大は 0. 005～20 mm の範囲内の波長で周期的に連続しており、かつ

隣接する稜線の列の間隔は相互に 0. 002 mm～5 mm であり、その際、列間の谷部は平面状または先端が尖っていてよく、かつ

横断面で台形またはくさび形の形の稜線は 20～60° の範囲内のくさび角 (α) を有する

ことを特徴とする固体。

【請求項 2】

稜線が付加的に横断面一ベース幅 (B) で周期的に変動している、請求項 1 記載の固体。

【請求項 3】

稜線のくさび角 (α) が列に対して一定である、請求項 1 または 2 記載の固体。

【請求項 4】

稜線が、0. 005～20 mm の横変動の波長で、優先方向の周囲で横に変動する経過曲線を有する、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項記載の固体。

【請求項 5】

稜線に隣接する列の高所部の周期的な変動が交互に互いにずれている、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項記載の固体。

【請求項 6】

稜線に隣接する列の高所部の変動がそれぞれ波長の半分だけ互いにずれている、請求項 5 記載の固体。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の固体の製造法において、公知の方法で、1 次成形法、再成形法、砥粒加工または溶着法、殊にエンボス法、切削加工、鑄造、射出成形、高エネルギー照射および／またはフォトリソグラフィ技術により微細構造を形成することを特徴とする、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の固体の製造法。

【請求項 8】

航空機、船舶または地上用車両の表面上の空気または水の流れの摩擦の低下のための摩擦低下表面を有する構造要素としての、または導管または容器中で迅速に流れる流体における流体の流れの摩擦低下のための導管および容器としての、保護する価値のある表面上の汚染物の付着低減のための、抗菌性表面としての、光屈折表面としての、および／または拡散性光散乱表面としての、反射防止表面としての、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の固体の使用。